



大学院だより



大学院新入生学外総合セミナー（静岡県御殿場にて）

任期終了を迎えて

井上 孝 大学院研究科長



平成22年6月1日に大学院研究科長を拝命し、3年間の任期は”Time flies like an arrow”でした。多くの改革を望んだのですが、”Rome was not built in a day”でした。それでも、大学院アドミッションポリシーの制定、大学院単位認定のための必修講義および評価の確立、学位審査への准教授、講師の参画、基礎講座大学院生の臨床研修プログラム、大学院教務部主導のセミナー（インプラント、再生、アンチエイジング）、臨床教授連絡会

および基礎教授連絡会推薦セミナーの実施、大学院生の東京歯科大学学会および口腔科学研究センター、ワークショップへの参加必修、大学院だよりの発行、ペーパーレス会議、アカデミックガウン着用による大学院修了式および懇親会の実施など実現することができました。勿論、多くのやり残した改革に関しては、次期田崎研究科長に託したいと思えます。水道橋に移転しても、益々大学院が発展していくことを祈念いたします。大学院研究科委員会メンバーの先生方を始め東教務部長、末石学生部長、百崎事務主任ならびに口腔科学研究センターの研究技術員、研究補員の方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

大学院入学式

平成 25 年 4 月 8 日（木）に千葉校舎第一会議室にて、大学院入学式が執り行われた。井出学長より、新入生を代表して原田麗乃大学院生（歯科理工学講座）に入学許可証が授与された。引き続き、井出学長より訓示を、井上大学院研究科長より挨拶を頂戴した。さらに、来賓として矢崎同窓会会長よりご祝辞を頂き、原田大学院生の宣誓をもって、入学式は厳粛な雰囲気の中に終了した。



平成 25 年度 大学院新入生学外総合セミナー

大学院に入学し、研究生の出発点に立ったこの時期に、目標をもった大学院生活をいかに過ごすかを意識し、研究に対するモチベーションを確立すること。そして、同じ環境で学ぶもの同士が親睦を深め、大学院生同士のコミュニケーションを確立することを目的として平成 25 年 5 月 8 日（水）～平成 24 年 5 月 10 日（金）に静岡県御殿場にて平成 25 年度大学院新入生学外総合セミナーが行われた。

5 月 8 日（第 1 日目）

（場所：千葉校舎 / 御殿場高原ホテル）

8:50	集合
9:00	バスにて移動
12:00	御殿場高原ホテル・ Hotel Brush up 着
12:00- 13:00	昼食、休憩
13:00	集合
13:05 ~	開講式：研究科長挨拶

13:15	
13:15 ~	オリエンテーション
14:40	自己紹介（2分程度）
14:40 ~	休憩
14:50	
14:50 ~	講義 1 「大学院で研究すること ～研究者としてスタートする ために～」 山本 仁教授 (口腔超微構造学講座)
16:00	

16:00 ~	講義1のまとめ (大学院生は、講義内容を140 字でまとめる)
16:10 ~	休憩
16:20 ~	課題に関する討論 課題提示「研究の倫理」 眞木吉信 教授 (社会歯科学講座) グループ別打ち合わせ
17:30 ~	事務連絡
17:40	
18:00	夕食懇親会
20:30	記念写真
20:30~	課題打ち合わせ (任意)

5月9日 (第2日目)
(場所: 御殿場高原ホテル)

9:00	集合
9:00 ~	課題に関する討論 (グループ討議) (48/4=12 4グループ)
11:05 ~	休憩 (プロダクト提出)
11:15	
11:15 ~	グループ別発表 (10分発表、5分質疑)
12:00	
12:00 ~	昼食

13:00	
13:00 ~	グループ別発表
14:00	(10分発表、5分質疑)
14:00 ~	自由時間
19:00	
19:00 ~	夕食
20:30	
20:30~	英文学術誌発表準備 (各自)

5月10日 (第3日目)
(場所: 御殿場高原ホテル)

9:00	集合
9:10 ~	講義2 研究するという事 佐々木先生 (勝田台歯科)
10:20	
10:20 ~	講義2のまとめ (大学院生は、講義内容を140 字でまとめる)
10:30	
10:30 ~	全体集合写真撮影
10:50	休憩、移動
10:50 ~	英文学術誌に関する発表 (4グループ)
13:00	
13:00 ~	閉講式
13:10	井上大学院研究科長
13:10 ~	昼食
14:30	
	バスにて千葉へ



大学院で研究するということ ～研究者としてスタートするために～

口腔超微構造学講座 山本 仁



大学院は何をするところでしょうか。本学大学院ホームページには「本大学院は歯学及び歯学に関する学問の領域において、理論

応用を教授かつ研究し、その奥義を究め、人類福祉の増進、ひいては文化の進展に寄与すると共に、有能な研究指導者を養成することを目的としている。独創的研究によって従前の学術水準に新知見を加え、文化の発展に寄与すると共に、専攻分野に関する研究、指導能力を涵養することを主眼とし、・・・」（「大学院概要」の一部を抜粋）と記載されていることから、大学院修了時までになくとも「独創的研究によって新知見を見出す」必要があります。この「新知見を見出す」過程が「研究」です。従って大学院は「研究を行うところ」にはなりません。

私の専門とする分野は「研究」に「実験」を伴うことが多いので、4年間という修学期

間に限られた大学院では効率的に実験を行うことが求められます。しかし、相反する意見ですが、皆さんには効率を考えずに「多くの実験手法」を用いて「多くの実験」を行ってほしいと思います。そして「多くの失敗」をしてください。「実験に失敗したこと」は「無駄な時間を費やしたこと」ではありません。本大学院のアドミッションポリシーには「国際的な視野、優れた研究能力、豊かな学識を有する研究指導者および歯科医学研究に精通した高度な専門職業人を養成します。」

（一部を抜粋）とあります。大学院修了後、皆さんは「博士」として「研究指導者」あるいは「高度な職業人」の仲間入りをし、後輩の研究や臨床の指導を行う立場となり、まさにその分野の最前線で戦うことが求められます。そのときに皆さんの「武器」となるのは「多くの実験」から得た技術、知識や思考法です。将来どのような武器をもち、どのように戦えるようになるかは大学院の4年間の過ごし方で決まります。この4年間が今後の人生の礎となるような有意義な大学院生活でありますように！

研究するということ

佐々木脩浩

千葉県八千代市 勝田台歯科医院院長



東京歯科大学を卒業して42年になる。学生時代から微生物学教室の奥田克爾教授（当時は助手であった）の *Bacteroides melaninogenicus* (*P.gingivalis* を含むグラム

陰性桿菌)の血液平板の作成等を手伝っていた。卒業後、大学院の研究科に進むつもりであったが、始めから微生物学を専攻しなかったわけではなかった。というのも、その当時、外科の大学院の募集人数は3人であったが、希望者は4人であった。その当時の外科の高橋教授に「君は微生物学教室の高添一郎教授のところに向いている」と言われた。どんな根拠があってそんなことを言ったのか、未だに不明である。

死んだ親父も東京歯科専門学校を卒業し、戦前にドイツに留学が決定していた。第二次世界大戦で留学が中止になってしまった。彼は死ぬまで「カルテ」はすべてドイツ語で書いていた。小学校時代から医者ドイツ

ツ語で書くのが普通であったのであろう。従って、歯科大の学生中は親父のカルテを読みたくて、正木正教授の小さな「ドイツ語の辞書」を電車の中でよく暗記していた。

高添一郎教授のもとでは、主任教授になって第一号の大学院の学生であった。私のニックネームは「ビッグボーイ」で、私が研究室から姿を消すと教授が大学の中を探している光景をよく人から指摘されていた。大学院時代は、歯周病原菌の分類学、その病原性因子の解析および選択培地等の研究に没頭していた。大学院4年生の時に、英語論文2編をまとめて、アメリカとカナダの10数か所を約40日間かけて研究者としての職探しに出かけたことがあった。そして「3万ドルで雇ってほしい」と懇願したが、誰も雇ってくれる教授はいなかった。大学院4年生の秋に、スウェーデンのカロリンスカ大学のウ蝕学教室のフロステル教授が「Sabbatical

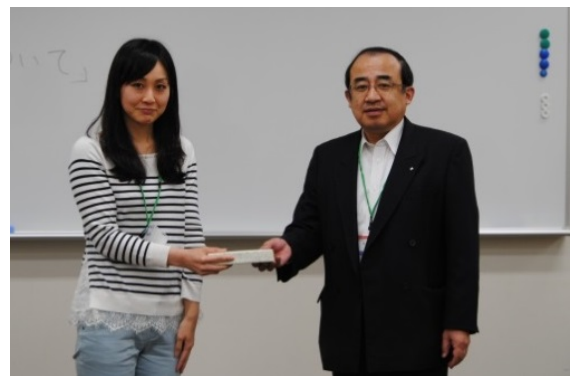
Professor: 職務を離れた長期休暇」として東京歯科大学の微生物学教室に約1か月間滞在し、高添一郎教授と共同研究を行った。その滞在中に、大学院セミナーを開催し、フロステル教授に質問したが、何の質問をしたか今では覚えていない。「いつかスウェーデンに来ることがあったら、私の研究室に訪ねてきなさい」と言われたことに感動を覚えた。高添教授はシンガポールなど10年以上の帰国子女であったため、バイリンガルの教授であった。よく日本語で質問すると、答えは英語であった。水のことを「ウォロ」、20のことをトゥウエンティではなく「トニー」と発音すると、「君の英語はアメリカの兵隊の英語なまりで、もうちょっとまじな英語を話みなさい」とよく指摘された。私の生まれ育ったところは米軍基地の近くで、小学校時代から高校時代までバスケットや釣りなどでアメリカ人の子供たちとよく遊んでいたことで指摘したのであろう。

その後、アメリカでの就職活動に失敗した私は、スウェーデンの政府留学生になるまで5年間、9編の英語論文を書いたが、海外に提出できた論文はたった3編であった。よく論文の中の考察の部分は、高添教授による査読で文章が真っ赤になり、自分の文章がほとんどなくなっていることを今でも鮮明に覚えている。そこで、自分で書いた英語論文を高添教授に見せないで、勝手に海外の論文に提出したことがある。レフリーから accept された初稿を初めて教授に見せたところ、怒られるかと思ったが褒められたことは未だに忘れられない。スウェーデン国費留学生時代、ウ蝕学教室のフロステル教授は午前中来て午後帰る「half professor」であったので、「午後はあなたの好きな他の研究室に行って、研究しても構わない」と言われ、歯周病学教室のセーデル教授のところで研究することになった。歯周病学教室では、サルを用いた実験的歯周炎（その当時一匹60万円するサルを4匹使用）、ウ蝕学教室ではキシリトールの研究を通じて5編の英語論文をまとめた。さらに歯周病学教室では、セーデル教授の臨床現場を経験し、大学から給料をもらうことができたことは幸いであった。

開業医時代は、若年性歯周炎の症例、歯科材料と環境ホルモン、インプラントと歯周病原菌等を含む6編の英語論文をまとめることができた。

スウェーデンでのウ蝕予防、歯周専門医の臨床は、咬合崩壊を伴う症例や、長期にわたって歯周組織の機能回復をさせたものが多く、脅威と感動を覚えた。帰国後、彼らのウ蝕予防および歯周治療というものに強い影響を受け、今日まで上記の予防、歯周治療、インプラント治療および臨床研究を実践してきた。その一端を紹介したいと思う。





熱心に講義を受ける大学院生たち



1日目の夜に行われた懇親会



佐々木先生も参加しての夕食会



グループ討議と英文学術誌の発表

学外セミナーについて

臨床検査病理学講座

Tungalag Ser-Od

I found this seminar very useful and productive for the 1st grade of PhD course to help understand how to be graduate student. I enjoyed every program that has been taken place here. However I didn't understand so we lecture which was presented in Japanese, overall I learned many things. (English presentation was interesting.) The place was beautiful, students were friendly.

小児歯科学講座

中内彩乃

元々、現役で大学院に入学していなかったため知り合いも少なく不安だった。少しずつ他の学生との交流を深めていく中で、1年専修科生を経験し、少し甘い考えを持つようになった私に、他の大学院生が喝を入れてくれたような気がする。初心を忘れず、彼らのように何事も真面目に取り組みたい。

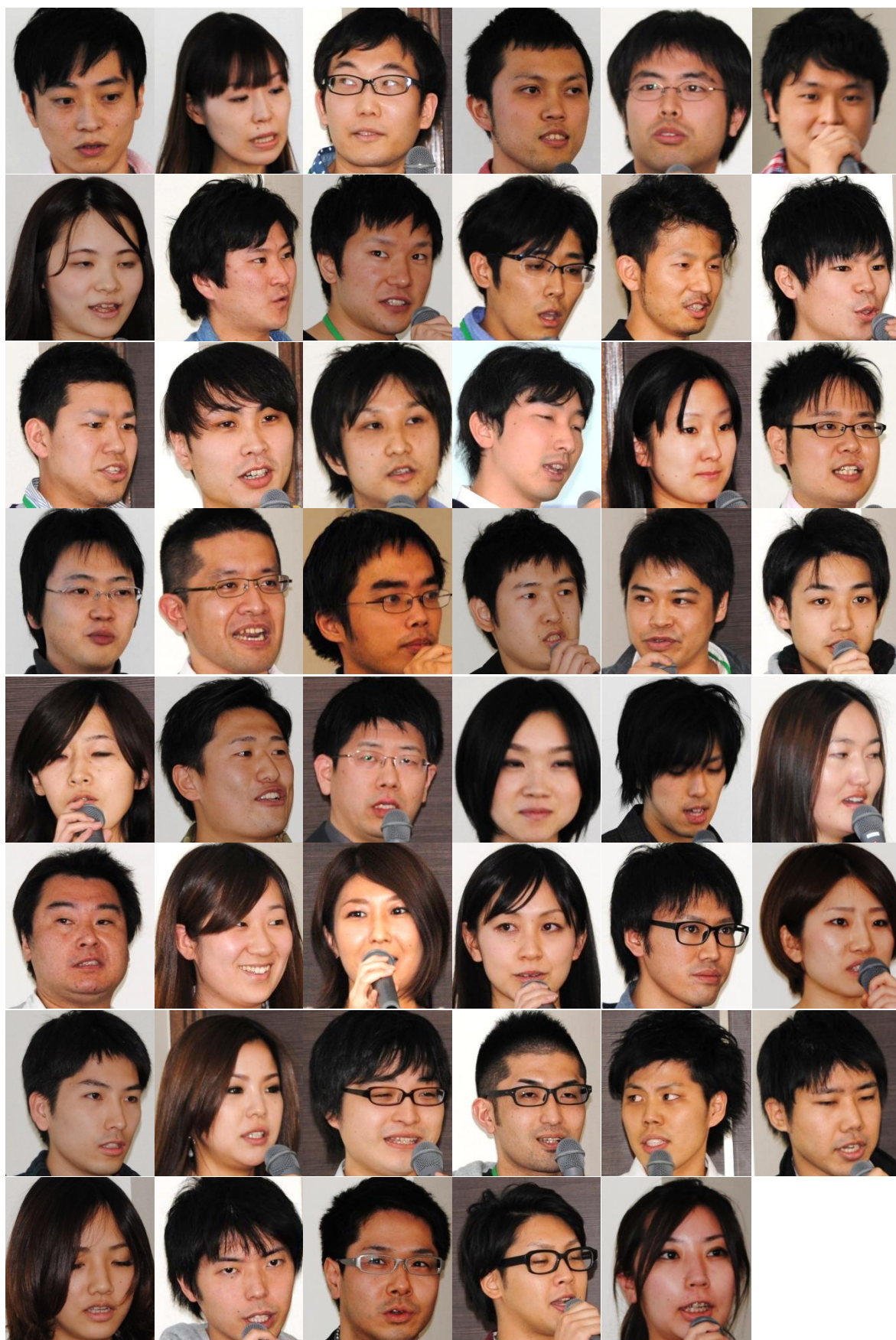
口腔外科学講座

丸茂知子

一番の収穫は、普段交流のない他講座の大学院生と知り合い、彼らの発表や研究内容について議論を交わせたことです。これからの4年間だけではなく、この先の歯科医師人生において、各分野の専門知識の高い友人を多く得られたことでより豊かで独創性のある研究を行っていただけることと思います。



平成25年度 大学院新入生



英文学術誌の発表

- 青木 栄人(歯周病学講座) Nano-Sized Calcium Phosphate Particles for Periodontal Gene Therapy/ *J Periodontol.* 2013;84:117-25.
- 新居 由紀(小児歯科学講座) Root resorption of primary molars without successor teeth. An experimental study in the beagle dog/ *Eur J Oral Sci.* 2012;120:147-52.
- 井口 達也(口腔外科学講座) Efficacy survey of swallowing function and quality of life in response to therapeutic intervention following rehabilitation treatment in dysphagic tongue cancer patients/ *Eur J Oncol Nurs.* 2012;16:54-8.
- 岩脇 清一(口腔健康臨床科学講座) Association Between Masseter Muscle Activity Levels Recorded During Sleep and Signs and Symptoms of Temporomandibular Disorders in Healthy Young Adults/ *J of Orofacial Pain.* 2005;19:226-231.
- 海老澤 朋宏(歯科矯正学講座) Canine retraction rate with self-ligating brackets vs conventional edgewise brackets/ *Angle Orthod.* 2010;80:438-45.
- 大木 章生(歯科矯正学講座) Malocclusions in children at 3 and 7 years of age: a longitudinal study/ *Eur J Orthod.* 2013;35:131-37.
- 大澤 枝里(小児歯科学講座) Tooth sizes in nonsyndromic hypodontia patients/ *Angle Orthod.* 2013;83:16-21.
- 小川 真(社会歯科学研究室) Silent Aspiration Risk is Volume-dependent/ *Dysphagia* 2011;26:304-9.
- 小高 研人(解剖学講座) Biological apatite crystallographic orientation and texture as a new index for assessing the microstructure and function of bone regenerated by tissue engineering/ *Bone.* 2012;51:741-7.
- 小田嶋 秀(クラウンブリッジ補綴学)
- 角屋 貴則(口腔外科学講座) Amoxicillin prophylaxis in oral surgery/ *Rev Stomatol Chir Maxillofac.* 2012;113:358-64.
- 門澤 佑亮(スポーツ歯学研究室) Relationship between going outdoors daily and activation of the prefrontal cortex during verbal fluency tasks (VFTs) among older adults: A near-infrared spectroscopy study/ *Arch Gerontol Geriatr.* 2013;56:118-23.
- 川上 良明(スポーツ歯学研究室) Orofacial and dental injuries of snowboarders in Turkey/ *Dent Traumatol.* 2010;26:164-7.
- 河野 克明(スポーツ歯学研究室) Exercise Capacity in Athletes with Mouthguards/ *Int J Sports med.* 2008;29:435-8.
- 北村 啓(解剖学講座) Development of the human temporomandibular joint/ *Anat Rec.* 1999;255:22-33.
- 久保 慶太郎(有床義歯補綴学講座) Association between prosthetic factors and temporomandibular disorders in complete denture wearers/ *Gerodontology.* 2013 Feb 28.
- 佐古 亮(歯科保存学講座) LPS induces IL-8 expression through TLR4, MyD88, NF-kappaB and MAPK pathways in human dental pulp stem cells/ *Int Endod J.* 2013;46:128-36.
- 佐藤 彩乃(歯科麻酔学講座) The Effect of Anesthetic Technique on Recovery After Orthognathic Surgery: A Retrospective Audit / *Anesth Prog.* 2012;59:64-74.
- 佐藤 涼一(衛生学講座) Development of the World Health Organization (WHO) Community Periodontal Index of Treatment Needs (CPITN)/ *Int Dent J.* 1982;32: 281-291.
- 佐野 陽祐(歯科保存学講座) Thy-1-positive cells in the subodontoblastic layer possess high potential to differentiate into hard tissue-forming cells/ *Histochemi Cell Biol.* 2012;137:733-42.
- 椎貝 康彦(オーラルメディスン・口腔外科学講座) Management of chemotherapy-induced nausea, vomiting, oral mucositis, and diarrhea/ *Lancet Oncol* 2005; 6: 93-102.
- 塩崎 雄大(クラウンブリッジ補綴学) Photoelastic stress analysis of different post and core restoration methods/ *Dental Mater J.* 2009; 28:204-211.
- 志賀 勇昭(口腔外科学講座) Exodontia and Antiplatelet Therapy/ *J Oral Maxillofac Surg.* 2008;66:2063-6.
- 柴野 正康(口腔外科学講座) Anthropometric evaluation of bilateral cleft lip nose with cone beam computed tomography in early childhood: Estimation of nasal tip collapse/ *J Plast Reconstr Aesthet Surg.* 2012;65:169-74.
- 清水 春紀(歯周病学講座) Probiotic effects of orally administered *Lactobacillus reuteri*-containing tablets on the subgingival and salivary microbiota in

- patients with gingivitis/ J Clin Periodontol. 2012;39:736-744.
- 杉内 亜紀奈 (歯科保存学講座) Comparison of stem cell properties of cells isolated from normal and inflamed dental pulps/ Int Endod J. 2012;45:1080-90.
- 鈴木 義弘 (スポーツ歯学研究室) Influence of mouthguards on the physical performance of soccer players/ Dent Traumatol. 2013 Jan 10.
- 芹川 雅光 (解剖学講座) Design of prevascularized three-dimensional cell-dense tissues using a cell sheet stacking manipulation technology/ Biomaterials. 2010;31: 1646-54.
- 田代 紋子 (小児歯科学講座) Responses of immature permanent teeth with infected necrotic pulp tissue and apical periodontitis/abscess to revascularization procedure/ Int Endod J. 2011;45:294-305.
- 露木 悠 (クラウンブリッジ補綴学) Effect of core design and veneering technique on damage and reliability of Y-TZP-supported crowns/ Dent Mater. 2013;29:307-16.
- Tungalag Ser-Od (臨床検査病理学) Adult Human Gingival Epithelial Cells as a Source for Whole-tooth Bioengineering/ J Dent Res. 2013;92:329-34.
- 直野 公一 (臨床検査病理学) Biological Aging of Implant Surfaces and Their Restoration with Ultraviolet Light Treatment: A Novel Understanding of Osseointegration/ The Int J Oral Maxillofac Implants. 2012;27:753-61.
- 永井 宜子 (小児歯科学講座) Erosive effect of beverage in the presence or absence of caries simulation by acidogenic challenge on human primary enamel : An in vitro study/ European Archives of Paediatric Dentistry. 2012;13:36-40.
- 中内 彩乃 (小児歯科学講座) Amoxicillin May Cause Molar Incisor Hypomineralization/ J Dent Res. 2009;88:132-6.
- 沼田 由美 (クラウンブリッジ補綴学) The influence of zirconia coping designs on the fracture load of all-ceramic molar crowns/ Dent Mater J. 2011;30:281-5.
- 野口 智康 (口腔健康臨床科学講座) Retrospective analysis of porcelain failures of metal ceramic crown and fixed partial dentures supported by 729 implants in 152 patients : patient-specific predictors of ceramic failure/ J Prosthet Dent. 2009;101:388-94.
- 萩原 綾乃 (歯科麻酔学講座) Comparison of Propofol-Remifentanyl Versus Propofol-Ketamine Deep Sedation for Third Molar Surgery/ Anesth Prog. 2012;59:107-17.
- 林原 貴徳 (クラウンブリッジ補綴学) Bonding of dental porcelain to non-cast titanium with different surface treatment/ Dent Mater J. 2012;59:107-17.
- 原田 麗乃 (歯科理工学講座) Masking ability of zirconia with and without veneering porcelain/ J Prosthodont. 2013; 22: 98-104.
- 平木 圭佑 (社会歯科学研究室) Timing Differences Between Cued and Noncued Swallows in Healthy Young Adults/ Dysphagia. 2013 Mar 1.
- 平田 淳司 (歯科麻酔学講座) The Use of Office-Based Sedation and General Anesthesia by Board Certified Pediatric Dentists Practicing in the United States/ Anesth Prog. 2012;59:12-7.
- 星野 照秀 (オーラルメディスン・口腔外科学講座) Long-term treatment outcome of oral premalignant lesions/ Oral Oncol. 2006;42:461-74.
- 堀部 耕広 (有床義歯補綴学講座) Effects of undecylenic acid released from denture liner on candida biofilms/ J Dent Res. 2012;91:985-9.
- 丸茂 知子 (口腔外科学講座) iPS cells reprogrammed from human mesenchymal-like stem/progenitor cells of dental tissue origin/ Stem Cells Dev. 2010;19:469-80.
- 安田 紀章 (歯周病学講座) Sonic Hedgehog Stimulates Proliferation of Human Periodontal Ligamental Stem Cells/ J Dent Res. 2011;90:483-8.
- 山内 真人 (解剖学講座) A retrospective study of the patients with third molar surgery A clinico-statistical study/ Ann Gifu Prefectural Gifu Hospital. 2003;24:119-22.
- 山田 晃輔 (歯周病学講座) Patterns of Diabetic Periodontal Wound Repair: A Study Using Micro-Computed Tomography and Immunohistochemistry/ J Periodontol. 2012;83:644-52.
- 渡邊 美貴 (口腔外科学講座) Living with difference:experiences of adolescent girls with cleft lip and palate/ Cleft Palate Craniofac J. 2013;50:27-34.

学生会より

平成25年度大学院学生会会長挨拶

歯科保存学講座 山村啓介



このたび、平成25年4月1日をもちまして東京歯科大学大学院歯学研究科の学生会長を拝命致しました、歯科保存学講座の山村啓介です。水道橋移転がいよいよ今年実現する重要

な時期に身に余る光栄であると同時に、その責務の重大さに身のひきしまる思いでおります。諸先生が築き上げた方向性と事業をさらに一步前進させ、今年度の水道橋へ移転に向けて、勢いのある大学院歯学研究科となるよう活動を継続して行っていきたくと思っております。

昨年度は前会長の安村敏彦先生、前副会長の中尾正先生が学生会を活性化させ、歯科のトランスレーショナルリサーチの為、多くの活動に取り組んでおられました。

今年度は、解剖学講座に所属しております副会長の野口拓とともに、まずは大学院学生総会の開催の準備に取り組みたいと思っております。今後の学生会の方針、事業などの情報を共有するため、是非皆様にご参加いただく様よろしく申し上げます。

私ごとではございますが、1年次から今年度までの研究進捗は苦難の連続でした。しかしたくさんの人と意見を出し合い、お互いに教え学び合い、また励まし合う事で研究はより進んで行くのではないのかと感じております。学生会ではお互い助け合いの精神で、今年度在籍する大学院生の皆様が心地よい大学院生活を送れるように精進努力してまいります。

甚だ微力ではございますが、諸先生の偉大な功績を受け継ぎ、本学の発展のために、専心努力する所存です。今後とも皆様のご支援、ご協力をいただき、より活発な学生会となるよう努力してまいりますので、ご指導ご鞭撻を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

編集後記

大学院だより7号は大学院入学式および新入生学外総合セミナーを特集した。学外セミナーでは講師の佐々木先生から「皆、熱心に課題に取り組み、質疑も優秀である」との講評を頂いた。4年後の評価も同様に高い事を切に希望します。井上先生と同じく、私の任期も終了いたします。大学院だよりの創刊に関われた事が良い思い出となりました。皆様のご指導、ありがとうございました。(末石 記)

